

広報

いかわ

IKAWA TOWNS.COM

2004
12

No.577

平成16年12月1日発行

- 市町村合併アンケート集計結果
- 第41回産業祭・第33回文化祭開催



(浜井川集会所付近)

ふるさとを見つめて

〜羽立初冬〜

〈20〉

～伊藤孝之助画「井川25景」より～
—昭和39年作—

人口などの動き

(11月1日現在)

・人口	男	2,852人 (-37)
	女	3,184人 (-10)
	計	6,036人 (-47)
・世帯数		1,764戸 (+7)

() 内は前年同月との比較

慶

弔

だより

(10/21~11/20)

■お誕生おめでとう

三浦	茉白	(匡之、京子・長女)	大倉
三浦	颯	(匡之、京子・二男)	大倉
藤田	紅羽	(雄昭、恭子・長女)	小今戸
伊藤	且樹	(秀樹、直子・長男)	羽立
齋藤	慶志	(修、美穂子・二男)	大野地
伊藤	穂香	(清勝、佐知子・長女)	上村
伊藤	泰将	(涉、美智代・長男)	さくら
石井	綾	(康彦、敦子・長女)	八幡
湊	萌唯	(教良、牧子・長女)	坂本
土肥	更紗	(祐介、志保・長女)	さくら

■ご結婚おめでとう (転入)

♡伊藤	正喜	八幡	(新本籍)	(新住所)
高橋	直美	秋田市		八幡 (秋田市)
♡湊	和樹	大野地		大野地 (大野地)
佐藤	百合子	西仙北町		
♡半田	広和	横岡		横岡 (秋田市)
船木	奈美子	男鹿市		
♡伊藤	智史	小泉		小泉 (秋田市)
富樫	久美子	秋田市		

■ご結婚おめでとう (転出)

♡瀬谷	宙志	東京都	(新本籍)	(新住所)
鈴木	真美	上村	東京都	東京都
♡杉本	雄	男鹿市		男鹿市 (男鹿市)
遠間	郁恵	田中		
♡千坂	充広	仙台市		北海道 (仙台市)
伊藤	道子	施田		

■お悔やみ申し上げます。

高橋	フミ	(85歳・麗子)	新間
伊藤	清隆	(57歳・本人)	羽立
山崎	啓三	(92歳・養悦)	井内
小澤	ハキエ	(90歳・進)	田中

善意

■地域福祉基金へ

- ・新聞町内の高橋智範さんより、亡祖母フミさんの香典返しとして3万円。
- ・街道町内の中山英悦さんより、亡父順太郎さんの香典返しとして5万円。
- ・今戸町内の伊藤良雄さんより、亡母ミツさんの香典返しとして2万円。
- ・赤沢町内の伊藤正一さんより、亡母チヨノさんの香典返しとして3万円。
- ・田中町内の小澤進さんより、亡祖母ハキエさんの香典返しとして3万円。
- ・坂本町内の湊新蔵さんより、敬老祝金のお礼として1万円。

■さくら苑へ

- ・井川小学校から、お米10kg。

“ありがとうございました”

ふるさとを見つめて 〈20〉

～町内だより



羽立

一四六世帯の活気と
団結ある町内会をめざして

朝は通勤、通学などで賑わいを見る羽立町内も昔から大きく様変わりしました。他の町内よりも比較的歴史が浅く、町の外れに位置し、大きく羽ばたくようにと羽立と名付けられたと聞きます。

昭和三十八年頃までは、町内を南北に走る旧国道七号線沿いの戸数六五戸の町内でした。当時は町内の東側に田畑の用水源池として大沼があり、きれいな蓮の花が咲き、魚釣り、レンコンの収穫、冬はソリや下駄スケートと子どもから大人までの憩いの場所として親しまれていました。その沼地もほ場に開拓され、また工場誘致の敷地として埋め立てられました。敷地の一部は宅地に供され、現国道七号線沿いから幅広い住宅地となり、現在は一四六戸と世帯が増えました。若い家族や子ども

もの姿も見られ町内が明るくなったように感じます。

町内事業は各種団体の協力で活発に活動しており、美しいまちづくりの一環として老若婦人会より沿道の花だん作り、年三回の缶・ごみ拾い、子供会では五月五日の子供おみこし、七夕、大晦日にはなまはげ行事の町内の家々まわりなどは恒例の行事となり、町内を楽しませてくれます。また三十三回を数える運動会や、昔から踊り継がれてきた盆踊りは老若男女一同楽しみにしている町内イベントです。

今年には十五年ぶりに町民体育大会で総合優勝と、町内沿道への彫刻の設置、新しい公民館の完成など、町内全体が活気づいており、町内会として心から喜んでいきます。

今後、町営住宅の方も含め、若い世代から多数の町内行事への参加を願いつつ、団結のある町内をめざしていきます。(羽立町内会長 小武海清熙さん)

施設の利用状況 (10月)

()内は累計

■環境改善センター	1,801人 (8,505人)
■歴史民俗資料館	32人 (215人)
■町民体育館	2,430人 (14,385人)
■町民武道館	1,083人 (5,720人)
■町営野球場	279人 (5,026人)
■スポーツ交流館	283人 (972人)
■定住促進センター	1,789人 (11,849人)
■日本国花苑施設	2,443人 (15,461人)
■老人福祉センター	1,607人 (10,499人)
■ごみ処理量	80t (642t)
■し尿処理量	118ℓ (674ℓ)

編集雑誌

ひとりごと

▼今月はことのほか狭いこの編集雑誌、誕生・結婚おめでとう、誕生の多さに喜んでスペースの縮減。先月は首都圏ふるさと井川会へ行ってきました。今年で十六年目のこの会、出席者の顔ぶれも幾分か若い世代に移り変わってきたように感じます。昭和二十年代のベビーブームと呼ばれる世代のこと。当時は一学年二五〇人余との話。単純計算で月平均の出生数は二〇人を超えます。ちなみに、私の出生数は二〇人を超えません。晩婚化と言われる昨今、わが三子三女にしてようやく第三次ベビーブームの到来かと期待しつつ、結婚欄に自分の名前を載せるのはいつの日か。

⑦